

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本文学論（一般総合選択）	
科目基礎情報							
科目番号	0071			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科			対象学年	4		
開設期	前期・後期			週時間数	4		
教科書/教材							
担当教員	岩下 祥子						
到達目標							
1、日本語・日本文学について積極的に関心を持つことができる。 2、必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。 3、相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。 4、社会で使用する言葉を広く習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語・日本文学について積極的に関心を持ち、読書習慣を持つ。			日本語・日本文学について関心を持つことができる。		日本語・日本文学について関心を持つことができない。	
評価項目2	必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめ、要点を押さえた資料作成ができる。			必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。		必要な情報を収集・整理ができず、文章にまとめることができない。	
評価項目3	相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。			相手の意見を理解・要約し、それに対する自らの考えを構築できる。		相手の意見を理解ができず、それに対する自らの考えを構築できない。	
評価項目4	社会で使用する言葉を広く習得し、それらを実践する社会的コミュニケーションの場で相手と意思疎通ができる。			社会で使用する言葉を習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。		社会で使用する言葉を習得できず、それらを適切に用いることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実践的技術者に必要な言語コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。授業では、日本語・日本語文学について学び、関心を高め、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行うなどして、文章表現能力・プレゼンテーション能力を養う。						
授業の進め方・方法	日本語文学の作品鑑賞を通じて抽出された課題や疑問点について、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行う。受講者は全員テキストを読み、発表内容・態度について意見・感想を述べる。						
注意点	配布するプリント類を整理すること。文献調査を丁寧にすること。他の人の発表に積極的に関わり意見交換を行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3		
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3		
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3		
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。	3		
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3		
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3		
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3		
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3		
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3		
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3		
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3		

				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	35	10	5	0	0	100
基礎的能力	50	35	10	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0